

## 海外投資環境セミナー

# タイおよび東部経済回廊への投資

タイ王国 東部経済回廊事務所 特別顧問 シハサック・プアンゲツゲオ

## 1. EEC（東部経済回廊）

タイにはEEC（東部経済回廊）という仕組みがあり、タイからのハブだけでなく、世界中につながっているものだと思っている。

以前私が大使を務めていた頃、誰もがアジアの経済成長に興味を持っていたが、インドや中国、韓国だけでなく、実は東南アジアがとても大事だと思っている。タイはASEAN経済共同体(AEC)に加盟しており、ASEAN経済は、アジアの中で3番目、世界では7番目の大きさになっている。

皆さまご存じかと思うが、タイの経済は1990年代後半ごろに難しい時期があったが、今はタイ経済が復活し、2016年のGDP成長率が3.4%、2019年は3.9%と予測されており好調である。さらに、今のタイ経済は、経常黒字を保つことができている。国民1人当たりのGDPも、今は7,462ドルである。タイはまだ先進国ではなく途上国だが、大きなアドバンスだと考えている。世界銀行のデータによると、ビジネスをしやすい環境のランキングで、タイは昨年、世界27位だったが、今年は21位に上がった。

## 2. タイの強み

私が考えるタイの強みは2点ある。一つは、ロケーションである。タイは非常に地理的優位性が高い。タイ周辺には、CLMV(カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム)を含むASEAN加盟10カ国、更にインドや中国ともつながっている。もう一つの強みは、投資である。重要なのはコネクティビティやトランスポーターションなのだが、タイは中でもコネクティビティが非常に優れていると思

う。いいロケーションであるということは、マーケットへのアクセスになると思っている。

これからタイ経済にとって何が必要とされているかを説明する。タイはASEANの原加盟国5カ国の一つであったが、1980年代はインフラ投資が不足していたため、経済成長が少し遅れていた。そのためタイは、中所得国の罫の危機に陥った。

そこらから脱するため、タイでは、「タイランド4.0」という政策が成立した。タイのこれからのインフラや投資を成長させるものだと思っている。タイは、2032年には途上国から先進国になるという目標を掲げている。そのために投資成長率を10%に、GDP成長率を4～5%に押し上げ、競争力をつける必要がある。

タイランド4.0の第1弾として、EEC（東部経済回廊）という政策を打ち出し、タイ東側の3県（チャチェンサオ県、チョンブリ県、ラヨン県）を指定した。恐らく皆さんが疑問に思うのは、なぜ東部経済回廊としてチャチェンサオ県、チョンブリ県、ラヨン県を選んだかということだと思う。1980年代、タイでは東部臨海地域（Eastern Seaboard）の開発をしており、国内外からの投資を呼びかけていた。当時から、自動車等の生産に関わる日本の投資家は、チョンブリ県などの開発地区に投資をしていた。この開発はタイの経済を成長させる仕組みだったと考える。そして、EECはEastern Seaboardの第2フェーズだといって間違いないと思う。

輸送面について見ると、EECはバンコクからそれほど離れていない。北の中国から高速鉄道を建設しているところだが、それもEECに連結させる。

西の方では、ミャンマーのダウエーで港の開発を進めている。

Eastern Seaboardでは、石油化学、自動車、電機などの工業がメインであったが、EECではSカーブと新Sカーブの12の重点産業が定められている。Sカーブは既存産業でさらに競争力を強化したい分野である。新Sカーブは将来性のある産業を指している。Sカーブで代表的なものは、電気自動車などの次世代自動車である。また、スマート電子機器、医療ツーリズムや、農業・バイオテクノロジーも重要になる。また、皆さんが召し上がる焼き鳥などの加工食品もタイから輸入されていると思うが、食品産業もさらに高度化していきたいと思う。新Sカーブで代表的なものはロボティクスである。タイも日本と同じく高齢化社会に入り、こうした分野が必要になる。私が一押しする分野は、航空産業である。タイ政府は、航空交通のハブとして、現在ウタパオ空港の拡張・増設を行っているからだ。そして、バイオ燃料やバイオ化学なども今後もっと盛んになってほしい。また、タイの医療は世界中からとても人気になっている。ただし、タイではハイエンドな医療用機器の製造は難しい。富山県では数多くの企業が医療用機器を作っているの、このプロジェクトは貴県と合致しているのではないかと考えている。それから、デジタル経済も大変重要である。中国のアリババもEECに投資することが決まった。防衛分野、更に教育、人材育成は大事な投資だと思う。EEC実現のためには、やはりインフラ投資が必要になる。主要3空港をつなぐ高速鉄道が2024年に完成する予定である。また現在、日本から来るとき最も古いドンムアン空港かスワナプーム空港が利用されていると思うが、実は収容能力をオーバーしている。今後はウタパオ空港の利用により混雑緩和が期待される。ウタパオ空港からバンコクまでは2024年完成する予定の高速鉄道で45分と利便性も高い。また、レムチャバン港とマプタプット港では港の拡張も進んでいる。

そして、私が誇りに思っているところを皆さんに紹介したい。私がフランス大使を務めていたとき、エアバスと交渉し、タイ国際航空とコラボレーションし保守整備施設（MRO）をウタパオに造ることになった。2023年には完成予定だ。MROのおかげで、タイは本当に航空のハブになるだろう。

インフラについて、現在、タイの鉄道は大部分が単線だが複線化が行われ2024年には完成するだろう。全てのインフラは大体2024~2025年ごろの完成を見込んでいる。

そして10月24日に、PPP事業として高速鉄道計画を進める覚書を締結した。これは日本への影響も大きい。なぜなら、国際協力銀行（JBIC）と中国国家開発銀行との提携だからだ。これから三つの空港がつながることになり、ウタパオ空港からスワナプーム空港、ドンムアン空港まで合計45分で行き来できるようになる。更にウタパオ空港を主体としたまちづくり（空港都市）をこれから行っていきたいと思っている。このプロジェクトには三つのコンソーシアムがあり、その1つには成田空港も入る。周辺地域のインフラ整備や観光業の活性化により、空港周辺のビジネス環境は更に良くなっていくだろう。

### 3. 経済協力の動き

そして、ロケーションの話にまた戻るが、タイは現在、13の自由貿易協定（FTA）を18カ国と結んでいる。これらの地域にタイで作ったものを輸出しても関税がかからない。締結先は大きな国ばかりなので非常に活用性が高いと思う。そして現在、EUと自由貿易協定の交渉をしているところだ。更に、タイを含むASEAN10カ国、プラス6カ国（日本、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、インド）でRCEPという新しい自由貿易協定を結ぼうと交渉中である。

2017年には、日本の世耕経済産業大臣が日本のビジネスマン、投資家約500名とともにEECを訪

問した。そして2019年2月には、JETROバンコク事務所の三又所長が、航空および医療機器産業、ホームケアに関する日本の代表団と一緒にEECを訪問した。

EECが現在MOUを結んでいる日本の企業・団体は、経済産業省、JBIC、JICA、日立、みずほ銀行、JETRO、神戸医療産業都市（KBIC）などが挙げられる。

現在、中国と日本が第三国へのインフラ投資で協力を強化することになり、その最初の国がタイになった。その取り組みは2018年に合意し、2019年にバンコクでワークショップが実現した。タイでは会議が2回開かれ、日中両国は輸送・物流、エネルギー・環境、スマートシティの分野で協力していくことになった。

現在、EECの中にあるアマタナコン工業団地と横浜市がコラボレーションして、スマートシティをつくらうとしている。先日、私は海外交通・都市開発事業支援機構（JOIN）と面談したとき、日航ホテルがアマタにも設立されると聞いた。

タイへの投資には税制面等のインセンティブがあり様々な手続きが必要だが、EECは、ビジネスセンターで全ての手続きを済ませることができる。

新しい情報の収集にはEECオフィスのウェブサイトをぜひご覧になってほしい。今回のプレゼンテーションで、EECについてもっと詳しく理解を深めていただければ幸いに思う。

（2019年11月1日「富山県ものづくり総合見本市2019」海外投資環境セミナーにおける講演より）